



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/17 (月)				海の日			欧：ECB総裁の講演
7/18 (火)	+ 300	+ 7,800	+ 8,100	個人向け国債 発行・償還 国庫短期証券 発行・償還(3M)	国債補完供給 + 47,900 国債買現先 ▲ 38,100 CP等買入 ▲ 700 社債等買入 ▲ 100	国債買入 + 16,700	
7/19 (水)	+ 1,000	+ 7,000	+ 8,000		共通担保 (全) ▲ 6,300		欧：ユーロ圏CPI (6月)
7/20 (木)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000	国庫短期証券 発行・償還(1Y) 流動性供給			日：貿易収支 (6月)
7/21 (金)	トシ	+ 2,000	+ 2,000		気候変動対応オペ ▲ 16,000		日：全国CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初10日、国債買現先オペ等により前営業日比+1兆3,500億円の537兆6,600億円から始まった。その後12日には5年債の発行や源泉所得税揚げ等により、530兆5,400億円まで減少したものの、14日には国債買現先オペを主因に536兆6,500億円（速報値）まで増加し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初10日、週末3日積み要因の剥落もあり、前営業日比▲0.009%の▲0.021%から始まり、翌11日▲0.026%まで低下したものの、積み期終盤にかけてビッドサイドの調達意欲の強まりから12日には▲0.019%、13日には▲0.009%と上昇基調に転じた。来積み期にかかる4日積みとなる14日のON物については調達を見送る先もあり、同金利は▲0.021%（速報値）に低下して越週した。ターム物は新積み期にかかる1W~2W物を中心に、主に▲0.050%~▲0.030%の水準で出会いが見られた。

来週の主な予定は、国内で20日に貿易収支（6月）の公表、21日に全国CPI（6月）の公表などがあり、海外では17日にECB総裁の講演、19日にユーロ圏CPI（6月）の公表などが予定されている。

<レボ>

足許GCは、買い現先オペがオファーされた週初は▲0.09%~▲0.08%のレンジで推移した。

週初には▲0.06%近辺まで上昇したが、13日の取引では、再び買い現先オペがオファーされ、週末まで▲0.09%~▲0.08%のレンジで推移した。

SC取引は2年438~449回債、5年149~158回債、10年350~371回債、20年180~184回債、30年65~79回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆800億円で、週間償還額（約7,600億円）を上回った。発行市場は、石油や鉄鋼、小売り等幅広い業態で大型の発行が行われ活況となった。発行残高は先週末時点の26兆5,140億円から13日時点で26兆6,073億円に増加した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。11日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.002%（前回0.000%）、平均落札レート0.011%（0.014%）と按分レートは前回比で上昇した。

来週の償還額は、約6,800億円となっている。発行市場は、連休により営業日数が少ないものの、良好な発行環境が継続している他、5・10日発行が重なることから発行超が見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出会いが見込まれる。

<TDB>

14日の3M（1169回債）の入札は、最高落札利回り▲0.1297%（前回債▲0.1209%）、平均落札利回り▲0.1366%（前回債▲0.1356%）となった。

来週は19日に1Y、21日に3Mの入札が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010